〔狂歌東都花日千兩 日本橋〕　花前亭

子をおもふ心のやみの黑江やに鶴の蒔繪の喰初の椀

〔毛吹草 三〕紀伊　黑江澀地椀

○按ズルニ、黑江澀地椀ハ、紀伊國名草郡黑江村ニ於テ製スル澀地椀ナリ、澀地トハ、地ニ澀ヲ塗リテ、漆ヲ髹リタルヲ云フ、

〔紀伊國名所圖會 一上 和歌山〕國產之事　澀地椀 黑江

〔棠大門屋敷 五〕浮世川身は捨小船

二人ともにうなづきあひ、心の內にて念佛し、さいごを極てぞ居たりける所へ、らういろに、金のいつかけしたる椀、折敷に、〇下略

以形狀爲名

〔古事記 下 履中〕乃於其隼人、賜大臣位、百官令拜、隼人歡喜、以爲遂志、爾詔其隼人、今日與大臣、飲同盞酒、共飲之時、隱面大鋺、盛其進酒、於是王子〇墨江中王先飲、隼人後飲、故其隼人飲時、大鋺覆面、爾取出置席下之劒、斬其隼人之頸、

〔延喜式 五 齋宮〕月料 小月物別減廿分之一

大椀十合

〔風俗文選 十 頌〕蕎麥切頌　雲鈴

花車を好みたる、あるへいとう盛もくるしく、又は一箸づゝの盛並も、中々待遠なれば、たゞつくね盛の大椀にて、三盃目の時、はじめて本性には立もどりけり、

〔好色一代男 七〕新町の夕暮島原の曙

物さびたる釜はたぎりて、岩倉の松茸を燒て、中椀にふたつ飲、〇下略

〔傾城色三味線 部之卷〕高洲ちもりに茂る戀草